

令和7年度 卒業年次アンケート分析結果の報告

1. 多くの学類・学科から寄せられた学園全体への意見

【バスに対する課題】

例年のアンケート結果同様、多くの学類・学科から改善を望む声が寄せられている。受験生確保のためにも、学園側に改善をお願いしたい。

(抜粋)

・通学手段、バスの利便性について限界もあるかと思うが、不満を感じている意見(バスの本数や時間設定、特に新百合ヶ丘行きのバスが少なく不便・混雑等の意見が複数あり)が多く、検討すべき課題である。本学学生の不便だけではなく、公共交通機関については、混雑により地域住民や一般客へも迷惑をかけている状況も伺える。(看護学科)

・バス利用に関する意見が多いため、改善策を検討する必要があるのではないか。(英語コミュニケーション専攻)

・自由記述回答に関して、例年同様にバス利用への言及(不満)が複数件みられる。(人間関係専攻)

・バスの運行本数や電車との乗り継ぎの利便性についての不満が多くあった。(住空間デザイン学類)

・通学のバスについて、約55%が「あまり満足していない」、「満足していない」との回答であったので、至急改善をお願いしたい。(健康栄養学科)

・スクールバスについては、「スクールバスの回数券や定期が高い。高い割には時間通りに来なかったり、満員で乗れなかったりしてこの4年間でとても不便さを感じた。これから通う人が不便な思いをせず、心置きなく学校に通えるようにしてあげてほしい。」「スクールバスが無さすぎるし、もっと増やして欲しい。特に平日昼間と土曜日の便少なすぎる。」等の意見が複数記載されていた。小田急バスについては、「バスの本数が少なすぎて大変な日もあった。特に新百合ヶ丘は利用者も多いためもう少し本数を増やしてほしい。また、バス代が高くなってきており、バス代だけでも何千、何万円とかかってしまうためスクールバスにするなど工夫してもらえるとさらに安心して通えると感じた。」等の意見が多く寄せられた。(健康栄養学科)

【キャンパスショップ、食堂等、キャンパス環境整備に関する課題】

例年のアンケート結果同様、多くの学類・学科からキャンパスショップ、食堂の改善を望む声が寄せられている。受験生確保のためにも、学園側に改善をお願いしたい。

(抜粋)

・食堂のメニューの少なさ、値段が高い、コンビニの営業時間が短い、品ぞろえが悪い等、4限終了後の利用やバスを待つ時間を快適に過ごせるようにコンビニや学食が充実したものになると良い。(看護学科)

・バスや学食の充実度に関しては、不便な立地にもあるということで、時代や若者のニーズに合わせた対応を検討する必要があり、入学生を確保するためには改善が必須である。(看護学科)

・学食についてお昼前に売り切れてしまうメニューがあること、食事の量が少ないこと、冷たくて美味しくないといった意見があった。(住空間デザイン学類)

・キャンパスショップについて営業時間が短いことの不満があった。また、住空間の学生向けに模型材料の品揃えを増やして欲しいとの要望が複数あった。(住空間デザイン学類)

・食堂やキャンパスショップについても意見が多く寄せられた。「食堂の充実度が低すぎる。毎日、同じもののばかりだし値段も高い。」「食堂の品数が少ない。値段も安くなく、大学館ではすぐに売り切れてしまう。」「コンビニは営業時間や決済方法などが限られていて使いづらい。商品の種類なども微妙。」等の意見があり、魅力的なキャンパスとして高校生に発信するためにも至急対策を講じていただきたい。(健康栄養学科)

・2号館や10号館の教室の椅子の座面が固く長時間の着席が疲れると不満の意見があった。(住空間デザイン学類)

・住生活館(空間デザインラボ)にコピー機設置の要望があった。(住空間デザイン学類)

【Wifi環境について】

令和6年度からWifiの環境が整い、満足度が上がっているが、学科によってはさらなる改善が必要と感じている学生が多いことから、さらなる環境改善が必要である。

(抜粋)

・ポータルサイト、Wi-Fi、GWEの利便性については6~7割程度の満足度であり、3~4割の学生は何らかの不便や不満を持っていることがうかがえ、課題もある。今後、大学の共用PCの撤廃が進む中で、自前のPCの充電スペース、オンデマンド学習スペースの拡充が必要である。(看護学科)

・KOMAJOポータルについて、スマホやタブレットで拡大表示すると×ボタンが押せなくなる仕様に対する不満の意見があった。(住空間デザイン学類)

・GWEのClassroomについて、授業期間終了後に消去されてしまうことに対する不満の意見があり、在学中は閲覧できるようにして欲しいと要望があった。(住空間デザイン学類)

・キャンパスライフにおいて、Wi-Fiの充実度と利便性に関して約56%が「満足していない」と回答している。「八十周年館の研究室の中がWi-Fiが繋がらず、卒業研究の際、とても困った。」「研究室にWi-Fiが欲しかった。パソコンで作業をするときに不便。」等の意見が複数記載されている。卒業研究および国家試験の勉強のために、健康栄養学科のすべての研究室のWi-Fi環境の整備をお願いしたい。(健康栄養学科)

・「Ⅱ 本学での学生生活について」の各設問でも、ほぼ全てで「とても満足している」の回答比率が学群平均・大学平均を上回っているが、学内Wi-Fi(問1-7)、ポータルの利便性(問1-2)の設問で、過去3年間を通じて上昇傾向にあることは、学内Wi-Fi導入の成果として注目されよう。(人間関係専攻)

【その他】

・クラブ・委員会・同好会活動の再活性化について

学生支援委員会へ結果を共有する。(抜粋)

・観光文化学類においては、「学外活動やクラブ・同好会・委員会等の充実度」の「とても満足している」が0%であったことが特に目を引く。現4年生は高校時代と大学入学時にコロナ禍を経験しており、クラブ活動など学内外の活動自粛の影響がまだ色濃く残っているという点が見て取れる。今後大学としてサークル活動などの活性化をどのように支援していくかを考えるべきであろう。(観光文化学類)

・学外活動やクラブ・同好会・委員会(問1-1)、小田急バス・スクールバス(問1-12)に関しては、「とても満足している」の回答比率が学群平均・大学平均を上回る一方で、「あまり満足していない」の比率も学群平均・大学平均を上回っており、賛否の傾向がより明確に表れている。(人間関係専攻)

2. 今後の改善結果についての要望

【アンケート実施内容、時期について】

実施内容、質問項目については、本委員会のみならず、他の委員会で実施しているアンケートとの調整が必要との意見があった。

(抜粋)

・バスに関する意見が多く改善が必要だと感じる。小田急かスクールバスかでもまた異なるため、改善方法を検討するために項目を分けて聞いても良いのではないか。(英語コミュニケーション専攻)

・看護学部から出された意見が反映され、内容が整理され回答しやすくなったと思われた。

(看護学科)

・今年度はアンケート実施時期が早まり年内実施となったことは良かったのではないと思う。ただし、学修到達度アンケートや授業評価アンケートとの実施時期がかぶって学生の負担が大きくなると、回答率だけでなく、回答内容の信頼性が低下する恐れがあるため、調整も必要であるとする。(観光文化学類)

・設問については、さらに工夫が必要であるとする。内容も大幅に入れ替えた方が良いと考える。特にアンケートに詳しい教職員に最新の傾向を踏まえた上でアドバイスを求める方が良いのではないか。どこかの業者にアウトソーシングする必要までは無いと考える。

(日本文化専攻)

・社会調査方法論の観点からみるならば、設問設計に関して少なからず改善の余地があるように思われる。現行版では、対象事項に対して漠然とした印象度・満足度を答える内容となっているが、そのことは、本調査の実施を導入することの趣旨・ねらいや、実施運営上の現実的な制約(の有無と程度)によっては妥当な計測結果をもたらしているといえよう。かたや、本調査の実施が、教育や学生指導の成果を精確に測定し、問題の所在を明らかにして本学運営の具体的な改善につなげることを視野に入れるものであるとすれば、調査課題(具体的にどのようなことの解明を目指すのか)を明確化すること、それに照らして設問設計や質

問文・選択肢の作成を目的合理的に具体化・精緻化すること、などの改良が求められる。(人間関係専攻)